

駒澤大学 駒澤会 創立 50 周年記念誌


駒澤会のあゆみ



駒澤大学

駒澤会





表紙の花 『金木犀』

駒澤会が誕生したのは10月15日（昭和46年）。この日の誕生花の1つが金木犀です。花言葉は「謙虚・気高い人・真実」。9月中旬から咲き誇り秋の訪れを感じさせる甘い香りは、古くから多くの人々に愛されてきました。花言葉のように、真実を見極め謙虚でありながらも気高く、これからも愛され続ける存在でありたいという願いを込めて、金木犀を表紙の花として選びました。

駒澤会のあゆみ 目次

- P.1 駒澤会創立50周年を迎えて
-会長 一戸隆男
- P.2 駒澤会創立50周年を祝して
-学校法人駒澤大学理事長
山本健善
- P.3 駒澤会50周年記念誌 祝辞
-学校法人駒澤大学総長
-駒澤会名誉会長
永井政之
- P.4 駒澤会50周年を祝して
-駒澤大学学長
-駒澤会名誉副会長
各務洋子
- P.5 意志の継承
-駒澤大学教育後援会会長
小林正和
- P.6 駒澤の縁に招かれ50年
-駒澤大学同窓会会長
大石孝
- P.7 かくねんむじょう
廓然無聖
~駒澤会創立50周年を祝して~
-顧問
森屋正治
- P.8 創立50周年にあたり
-相談役
田中隆一
- P.9 駒澤会奨学金・学生支援について
給付についての現状報告
学生支援プロジェクト第3弾「食べて、
学んで、SDGs」に支援
- P.11 奨学金・学生支援を受けて
学生の言葉
- P.12 駒澤会のあゆみ(41~50年)
進化する駒澤大学の一助となるべく、
駒澤会の役目
- P.17 10年間の駒澤会役員および
大学当局・事務局一覧
- P.18 駒澤会の思い出
-相談役
高見静子
- P.19 駒澤会思い出の記
-相談役
村田保廣
- P.20 駒澤会の思い出
-副会長
木村朋子
- P.21 駒澤会の思い出
-監査
荒井喜久子
- P.22 教育後援会と合同で箱根駅伝を応援！
-総務部長
堀純一郎
- P.23 私が駒澤会を大切に思う理由
-広報部長
齋藤和子
- P.24 駒澤会「秋の研修会」
-厚生部長
滝沢憲示
- P.25 ゴルフで繋ぐ駒澤愛
-厚生部副部長
吉田稔
- P.26 「駒澤会奨学金基金」へのご寄付のお願い
- P.27 駒澤会に思う
-副会長
駒澤大学駒澤会50周年記念事業実行委員会
委員長 山田直重



駒澤会創立50周年を迎えて 会長 一戸 隆男

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

駒澤会は2021年10月に創立50周年を迎えました。この記念すべき50年という節目の年を迎えることができましたのも、これまでさまざまな形で私たちを支えてくださった会員の皆さまやご関係の皆さまのおかげであり、諸先輩方のご苦勞とご努力に厚く御礼申し上げます。

駒澤会は保護者会OBの有志の方々が、子弟卒業後も相互の親睦を図りつつ大学の発展交流のため奨学制度を通じ、寄与していきたいとの想いから駒澤大学90周年記念事業の一環として昭和46年10月に発足した団体です。発足してから現在に至るまで、絶えることなく学生へ奨学金「ゆめ基金」の給付をし、給付学生数は1,165名となりました（令和2～3年度は、国の奨学金新制度により給付対象学生がいなかったため未給付）。

50年目である2021年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染拡大により鬱々とした情勢が続く一方で、オンラインを活用した学生による大学イベントの開催や同窓生オリンピックにメダリストの誕生など、駒大生の華々しい活躍を耳にする機会が多くあり誇らしく思います。また、駒澤会委員総会書面会議では全国にいらっしゃる会員の皆さまから、このような時世だからこそ学生支援の充実を望むあたたかいご意見が多く寄せられ、環境が変化しても変わらない想いや絆に心強く感じます。

50年間共鳴し続けてきた保護者の「駒澤大学の一人でも多くの学生を支援したい」という想いこそ特筆すべき駒澤会の財産です。想いがなければ、駒澤会が存続することも実際に学生を支援することもできません。これからの駒澤会を繋いでいく者として、学生支援に対する「想い」は不滅であることを証明し、次の50年間もより多くの学生が「駒澤大学で学べて良かった」と笑顔で過ごすことができるよう、情勢や環境に応じた最善の学生支援を行って参る所存です。

最後になりましたが駒澤大学のさらなる発展ならびに皆さまのご健勝とご多幸を祈念し、駒澤会への今後ともなお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



駒澤会創立50周年を祝して 学校法人駒澤大学 理事長 山本 健善

駒澤会創立50周年、誠にありがとうございます。

駒澤会会長一戸隆男様をはじめ役員及び会員の皆さまには、平素より駒澤大学の学生に対して心温まるご支援を賜っておりますこと、ここに厚く御礼申し上げます。創立50周年を迎えられ、これまでご支援を頂いてまいりました半世紀の歴史に、心より敬服の念を抱いております。

その創設は、駒澤大学90周年事業の一環として、「七一会」を母体に「駒澤会」が発足され、初代会長に曹洞宗審事院長であった黒田白純老師を招聘し、奨学金制度を確立させるため、両大本山、有志御寺院、卒業生父母が入会され、その歩みが始まったと伺っております。以来、多くの学生が駒澤会からの奨学金の恩恵に浴し、社会で活躍している姿に思いを巡らせますと、まさに道元禅師が正法眼蔵に示された「四摂法（布施・愛語・利行・同時）」が、ここに現成しているといっても過言ではないかと存じます。

駒澤大学の歴史を振り返れば、寺院の子弟ばかりでなく、広く一般にも門戸を広げた総合大学として、時代の変化に則した改善と改革を重ね、現在その存在を社会に示しております。こうした現在の姿は、駒澤会をはじめとする様々な方々の永きにわたるご支援とご理解があればこそと、感慨無量の境地でございます。

さて、未曾有のコロナ禍は、私たちの日常生活を一変させたばかりか、健康被害は命にまでも影響を及ぼし、まさに人類の危機といっても過言ではない様相を呈しております。只今は、対面授業やクラブ活動も、徐々に戻りつつありますが、こうした中において、大学はもとより教育の重要さがますます再認識され、リモートによる授業をはじめ、クラブ活動などもその在り方の再検討が求められております。これは関係各位の皆さまにとっても大学の意義そのものを考える大きな機会となっております。こうした状況において大学の全教職員が、改めてこの駒澤大学の将来を導く存在となるよう、しっかりと足元を見据えながら、ひとつひとつ丁寧に事に当たって参りたいと存じます。

我が駒澤大学には、禅の教えがあります。将来ある学生が、惑わされない静かな心と四摂法の実践を自らの足元から世界に広げることが、社会に旅立ってからの大いなる糧になると信じております。本学は、まさにこの人づくりの原点に立たなければなりません。わたくしたち教職員も、駒澤会の皆さまのご恩に報いるべく一丸となって大学発展のために努力をいたす所存です。どうぞ今後とも、この伝統ある駒澤大学の学生に対しまして、ご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

最後になりましたが、駒澤会と会員の皆様のご健勝とご繁栄を心より祈念いたします。

合掌



駒澤会50周年記念誌 祝辞

学校法人駒澤大学 総長
駒澤大学駒澤会 名誉会長 永井 政之

駒澤会が設立50周年を迎えられることとなりました。コロナ禍でなければさまざまな行事や祝賀会の催行も想像されるところですが、残念ながら、当面、それを許す状況に至っておりません。

翻って見れば、本会設立の当時、筆者はまだ本学大学院に在学中でした。「民主化」を求める学生たちによって、全国の大学に吹き荒れた「学園紛争」、本学も無縁ではありませんでした。旧1、2号館、7号館、8号館がバリケードによって封鎖され、授業もままなりませんでした。その数年後、学園紛争が次第に落ち着きつつあった、昭和46年（1971）10月、「駒澤会」が呱呱の声をあげたと仄聞しております。

いったい本会設立の趣旨や関係された諸先輩については、本誌40周年号等に詳しく述べるところです。発足に関わられたのは、私の両親の世代、つまり第2次世界大戦のさなかに青春を過ごし、望むような勉学もままならず、平和を迎えた戦後になってもまだまだ経済的ゆとりのない中、必死の思いで子弟を本学に送り出して下さった方々だったように察します。

「子弟教育の支援は大変な苦勞だった。しかし駒澤大学はその期待に応えてくれた」という想い、所謂「駒澤愛」が、結果として教育後援会（当時の父兄会）OBによる本会の発足に繋がったと言えないでしょうか。

駒澤会は会誌の発行、親睦会や忘年会、賀詞交歓会、箱根駅伝の応援など多方面で活動されていますが、中でも経済的に困窮する優秀な学生諸君に対して返還義務のない奨学金「ゆめ基金」を、一人20万円、年間20人に支給していることは特記すべき活動です。また開校130周年記念棟「種月館」建設への御寄付も忘れてはならないでしょう。

このように記すと、駒澤会の役割は、「学生への経済的な援助」の部分のみがクローズアップされそうです。しかし私は教育後援会の活動を通して培っていただいた本学への「想い」を、それぞれの役職を離れても持ち続けてくださる方々がいらっしゃるということこそ、最も尊重すべき事と思っています。

先にも述べましたように、本会の発足は高度経済成長の時代でした。右肩上がりの経済成長は、都市への一極集中、学歴社会など、解決が困難なさまざまな問題を惹起しました。深刻さは現代に至って、より増していると言っても過言ではないでしょう。

今更言うまでもなく、仏教の基本的な教えは「縁起」にあります。あらゆる存在が「縁」によって成り立っているという教えは、「人は一人では生きられない」ということにつながります。

教育後援会でともに苦勞した仲間のつながりを大事にしつつ、「駒澤大学に学ぶ学生を大事に育てていこう」という本会の主旨は、「縁起」やそこから導き出される「利他行」に通ずるように思っています。受給生のよりよい未来構築のためにも、駒澤会のより一層の発展と活動の継続を御願ひする次第です。

最後になりましたが、駒澤会の皆さまの御健康と御多幸を祈念して御挨拶とさせていただきます。



駒澤会創立50周年を祝して 駒澤大学 学長 駒澤大学駒澤会 名誉副会長 各務 洋子

駒澤大学駒澤会創立 50 周年、おめでとうございます。

創立以来半世紀もの長きにわたり、本学の学生に対しまして温かいご支援とご厚情を賜り心より感謝申し上げます。駒澤会のホームページを拝見しますと、そのあゆみの第一歩として、「昭和 46 年 3 月、卒業生父兄会 OB 会の有志が卒業式後の会合で、今後相互の親睦をはかり、大学の興隆発展のため、奨学金制度を通じ、少しでも寄与していきたいという念願から、有志による『七一会』を発足させました。」と記されています。その年の 10 月、駒澤大学 90 周年事業の一環として、「七一会」を母体として多くの卒業生父母に呼びかけられ、「駒澤会」が生まれました。50 周年を迎えられたその足跡を辿りますと、自ずとその重みがひしひしと伝わって参ります。駒澤会の恩恵に預かり、これまでに約 1,100 名を超える学生が巣立ちました。この様な素晴らしい活動を継続されてこられたことに対し、心からの感謝と敬意を表したいと存じます。

この 1 年半あまり、新型コロナウイルス感染症の流行により過酷な日々が続きました。世界の価値観が大きく揺らぎ、大学の在り方も根本的に変革を問われております。入学式も、卒業式も、オースタムフェスティバルも、ゼミ合宿も、サークル活動も、すべてがオンラインで実施され、対面での活動が困難を極めました。現在、大学 2 年生の学生たちは、特に影響がありました。辛い大学受験を終え、晴れて大学に入学したその日から、オンラインでの講義が続き、大学のキャンパスが閉鎖され、教室での勉強も、学食での語らいも経験せずに 1 年半が過ぎて行きました。

しかし、ようやく収束が見えて参りました今、彼らの心の奥底にふつふつとエネルギーが湧いている様子が伝わって参ります。過酷な 1 年半の経験は、決して無駄ではなかったということ。苦しい経験を共有したからこそ、これからは共に新たに成長したいという情熱が静かに流れている様子を感じます。

駒澤会発足後、半世紀を経た今、新型コロナウイルス感染症の猛威をなんとか潜り抜け、新たな駒澤大学を共に創って参りたいと強く思います。この 4 月より当局が新体制となり、＜デジタルと伝統の融合で新しい駒澤大学を創る＞ことを公約として掲げました。手段としてのデジタル化と、多様性を活かすダイバーシティマインドをもって、駒澤大学は、駒澤会とともに、新たな時代を歩んで参りたいと存じます。

駒澤会のますますのご発展を祈念申し上げまして、50 周年のお祝いの言葉といたします。



意志の継承

駒澤大学教育後援会 会長 小林 正和

この度は、駒澤会創立50周年誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。大学の発展と学生支援に寄与するため卒業生の保護者の方々で発足される組織で、駒澤大学学生の支援活動を駒澤会と教育後援会が共に支え続けられてきたことは、とても心強く感じます。私事ではございますが、今年50歳を迎えまして奇しくも駒澤会と同じ月日を過ごしてきたことを伺い、歩んできた道のりは違えど同じ時代を通り抜けてきたことは、非常に感慨深いご縁も感じます。昨今では、コロナ禍の影響により活動自体も儘ならない厳しい状況にありますが、日々駒澤大学の学生に対する志は変わらぬところと存じます。

今日の教育後援会も同じく、コロナ禍の中その活動が難局を迎えております。しかしながら、その本質は変えずに継続して活動できていることは、駒澤会におられる諸先輩役員の皆さま及び各委員の方より学生支援を目標としたその在り方・運営の基本理念をしっかり教え引き継いでいただいたことが、たいへん大きいと思っております。奨学金制度、教育懇談会、スプリングフェスティバル等、築き上げていただいた先輩方の並々ならぬ努力とご尽力による成果が、今も脈々と受け継がれております。こうしたご功績を私たちも受け継ぎ、さらに駒澤大学の学生たちが有意義な学生生活を送れるように邁進したいと考えております。

本来であれば、8月の親睦会、新年賀詞交歓会等でお顔を合わせご挨拶させていただき懇親を深めているところではありますが、ここ約2年間はそれも叶わない状況となっています。コロナ禍が終息した際には、再び交流を再開し、同じ志で駒澤大学の学生支援をお互い協力し、未来ある学生たちの環境整備に努めて行ければと存じます。

昭和、平成、令和と繋いできた襷をさらに繋げ、駒澤会のこれからの10年のさらなる発展にご期待申し上げてお祝いの言葉に代えさせていただきます。



駒澤の縁に招かれ50年 駒澤大学同窓会 会長 大石 孝

駒澤会役員ならびに会員の皆さま、歴代会長および関係者の皆さま、このたびは駒澤会創立50周年の節目をお迎えになられましたこと誠にありがとうございます。同窓会を代表し、心より祝福申し上げます。

駒澤会の皆さまとは、駒澤大学の外郭支援団体として教育後援会とともに3団体肩を並べさせていただいているわけですが、ご息女がご卒業された後も、引き続き我がことのように駒澤大学へ温かいお気持ちをお寄せいただく姿には、いつも胸を熱くする次第です。

大学への支援のみならず、駒澤会では会員相互の交流と親睦を深めるためのさまざまな活動を実施されているとうかがっております。その中には、同会の名誉会長、名誉副会長でもあられる永井総長や各務学長が参加される行事もあるとのことで、総長や学長の声が聞ける、話ができることも駒澤会ならではの特権ではないでしょうか。駒澤会で母校の今を知り、その話をご息女の耳に届き、それをきっかけに母校を懐かしんで、同窓会へと意識が向いてくれば、我々同窓会としてもこれほどありがたいことはございません。

駒澤会と教育後援会、そして同窓会は、いずれも駒澤大学の応援団です。昨今の新型コロナ問題のみならず、これからの私立大学にはありとあらゆる困難が襲いかかることでしょうか。そんなときに、私たち3団体は大学のニーズに合わせた支援を実施し、駒澤大学を縁の下で支えなければなりません。親としての想い、母校に対する想い、そして導かれた「縁」によって結ばれた駒澤への純粋な想いによって、それは実現できると考えます。

創立以来、駒大生のサポーターとして、駒澤会奨学金「ゆめ基金」によって学生を支え、その趣旨に賛同した会員同士の相互の絆と教育後援会との強い連携によって、今日こうして50年もの長い歴史を刻まれたことにただただ感服するばかりです。我々同窓会も令和4年に前身の学友会創設から100年を迎えます。これから先、社会情勢は刻一刻と変化し、時代の波も決して穏やかではありませんが、そんな中でも駒大生が光り輝くことを道しるべに我々3団体一步一步、あゆみ同じくして駒澤大学を支えていけることを望みます。

駒澤会の皆さまのご多幸と、駒澤会が今後さらに会員を増やし、活気ある会としてご発展されることを祈念し、50周年のお祝いの言葉にかえさせていただきます。



かくねん むしょう
廓然無聖

～駒澤会創立50周年を祝して～
顧問 森屋 正治

駒澤大学駒澤会創立50周年に際し、心よりご祝福申し上げます。また、一戸会長をはじめとする役員の方や会員の皆さま、日頃より会をお支えいただいている大学役員をはじめ関係各位の皆さまにこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。そして、駒澤会と共に駒澤大学を常日頃から応援してくださっている教育後援会、同窓会の皆さまにも当会へのご理解ご協力を賜り感謝申し上げます次第です。

駒澤会は昭和46年に当時の父兄会OBが、ご息女の卒業後も親睦を図りつつ大学の発展興隆に奨学金の給付を通じて寄与したいという念願から、駒澤大学90周年記念事業として発足しました。現在に至るまで、当会の根幹である奨学金を絶えることなく給付し、成績優秀な学生を支援してこられたのも当時の学監である藤田俊訓先生や初代会長である黒田白純老師を始めとする役員の方や宗門をはじめとする関係各位のご尽力の賜であると心底感じる次第であり、そうして脈々と受け継がれてきた駒澤会において、平成24年から令和元年まで、第8代として4期8年に渡って会長職を全うできたことは、私にとってたいへん栄誉なことでありました。

会長在任中は、より多くの方が会に入会しやすいように会費の制度を見直したり、参加される方が心から楽しんでいただけるような行事を企画したり、教育後援会の皆さまとの連携を強化し、積極的な懇親をはかったりと駒澤会が会員の皆さまのよりどころとなり、エンドレスの会となることを目標に邁進しました。その思いは、現会長である一戸氏へと引き継ぎ、私は顧問として会を見届けている次第です。

駒澤会では「初夏の親睦会」や「秋の研修会」で、いろいろなところへ行きました。近年では奈良県の「橿原神宮」や「高尾山」、「最乗寺」や「永平寺」など、この会でなければできないような体験をたくさんさせていただいたと思います。最近でこそ新型コロナの影響で各種行事を断念せざるを得ない状況ですが、また時が許すようになれば駒澤会のメンバーで楽しく出かけたいものです。

50年という節目を迎えた駒澤会ですが、またこれから一步一步と、創立時の念願を達成し続けるべくあゆみを進めないといけません。そのためにも今後さらに新しい仲間が加わり、会がより活発に、魅力的になるよう役員一同励んでいる次第です。結びに、駒澤会ならびに駒澤大学の今後益々のご発展を祈念し、祝福の挨拶とさせていただきます。



駒澤会創立50周年にあたり 相談役 田中 隆一

この度は駒澤会創立 50 周年にあたり、会を創立された諸先輩方に敬意を表します。

私は駒澤大学高等学校に勤務し、同僚に駒澤会創立時のメンバーである藤田俊訓先生の甥がいましたので、その先輩から駒澤会が「学生に奨学金を支給する活動をしている」ということは聞いておりました。たまたま長女が駒澤大学に入学し卒業の際、駒澤会の入会案内が届いたので 2000 年に入会し現在に至ります。ご縁やタイミングが繋がり、駒澤会の一員として 50 周年をお祝いすることができたいへん嬉しく思います。会員の方々の中には駒澤大学高等学校時からお世話になったご父母の方々も多く、親しく接していただき感謝します。

教員生活しか経験のない私にとって、会の研修会・忘年会などの会員の交流会はいろいろな職種の方々と接することができ、貴重な体験となりました。また、奨学金授与式に参列した際、たまに附属高校の卒業生を見かけるのも楽しみの一つでした。

私事ではありますが 2020 年 9 月、右脳皮下出血のため左側が麻痺、歩行が不自由になりこれから交流会に参加できないことが残念です。

駒澤会奨学金「ゆめ基金」は学生にとって細やかな支援ですが、有ると無いとでは大きく違います。私たちが思っている以上に学生たちには可能性があり、夢があり、考え悩むこともあるのではないのでしょうか。夢や可能性の大小にかかわらず学生たちが行動をする時、駒澤会のゆめ基金が学生の背中を押す一因となれたら、これ以上に幸せなことはありません。

どうか駒澤会が次の 10 年、50 年と末長く存続することを願い、お祝いの言葉といたします。

駒澤会奨学金「ゆめ基金」について

駒澤会では、毎年学業奨励を目的とし各学部の成績優秀者に対して、1人20万円の奨学金を20名に給付しこれまでの延べ給付人数は1,165名となりました。しかし、令和2年度以降、第一給付目的が「学業奨励」から「経済支援」に変化し、採用基準が変わった結果、給付対象者がいなかったため、2年連続して給付に至りませんでした。その経緯について詳細をご報告いたします。

駒澤大学には、「駒澤大学百周年記念奨学金」と「駒澤大学同窓会奨学金」、「駒澤大学駒澤会奨学金」の3種類の学内奨学金制度が設けられています。学内の対象者に対し支援を行う給付型奨学金ですが、令和2年度より学内の奨学金関連諸規程が見直され給付対象の第一目的が「学業奨励」から「経済支援」に変化し、その第一目的を満たす対象者のうち、学業成績の優秀な学生に給付することになりました。

また、令和2年4月より文部科学省が始めた「高等教育の修学支援新制度」により、学内奨学金対象者数が大きく減少しました。この国による新制度は、私立大学に通う自宅外生で最大、年間70万円の授業料減免と年間91万円の給付型奨学金を受けられる制度です。これには600名を超える学生が採用され、経済支援型奨学金の対象者層の多くは包含されることとなりました。

駒澤大学でも奨学生の募集・選考を行いました。国の新制度による採用者も多く、申請者が100名に満たず、規程に基づき申請者全員を「駒澤大学百周年記念奨学金」で採用したため、駒澤会奨学金における奨学生選出には至らなかったという経緯です。

このことについては令和2年度第2回役員会にて事務局より報告され、令和2年度は奨学金予算は運用せず、来年度以降の充実した支援に充当することで承認されました。

しかし、令和3年度も奨学生選出に至らず、2年続けて奨学金未給付の現状と、委員総会（書面開催）で会員から寄せられた「こんな情勢だからこそ、学生支援の充実を図ってほしい」というご意見を鑑みて、学生部が企画する学生支援プロジェクトに支援することが令和3年度第2回役員会にて決定いたしました。詳細の報告は以降ページにてご確認ください。

会員の皆さまにおかれましては引き続きご理解、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

駒澤大学食料品・生理用品支援プロジェクト第3弾 「食べて、学んで、SDGs」に駒澤会から支援

駒澤会奨学金の奨学生が令和2年度から選出されず未給付となっていることから、昨今の社会情勢に応じた新たな学生支援として、学生部が主催する学生への「食料品・生理用品支援プロジェクト第3弾」に、支援金100万円を寄付することが、令和3年度第2回役員会にて承認されました。

同プロジェクトは2021年11月15日（月）から19日（金）の5日間、駒澤大学記念講堂にて実施され、5日間で2,382名の学生が来場しました。食料品・生理用品支援プロジェクトのテーマは、「食べて、学んで、SDGs」！

11月15日（月）には、駒澤会会員の皆さまを代表して一戸会長と赤堀副会長、木村副会長が出席し学生に支援物資を手渡しました。支援を受けた学生からは「食料、文房具、生理用品など幅広く支給されとても助かりました。」「コロナ禍でアルバイトができなくなった。一人暮らしなので本当にありがたい。」といった感想が寄せられました。

同企画はSDGs Goalの1・3・4・5・12に対応する取り組みで、カップラーメンやレトルトカレー、福島県産米などの食料品をはじめ、ハンドソープやハンドジェルといった感染予防グッズのほか、文房具や生理用品を配付し、この取り組みはTBSや日本テレビなどのニュースでも取り上げられました。引き続き駒澤会は情勢に応じた学生支援を行って参ります。



物資を手渡す（左から）一戸会長と赤堀副会長、木村副会長

**駒澤会は学生生活を
応援しています。**

駒大生の皆さん、はじめまして！
駒澤会は「卒業生の父母の会」で、学生を支援するために、毎年奨学金を給付しています。
今回は、より多くの学生に支援ができると
思い、この学生支援プロジェクトに参加
しました。
皆さんの力になれば幸いです。

アンケート実施中！
ぜひ回答にご協力
お願いします。

駒澤会ホームページ

支援物資と合わせて配付した
駒澤会紹介のチラシ

駒澤会奨学金「ゆめ基金」奨学生の声

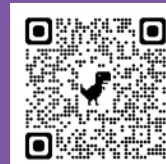
駒澤会はこれまで1,165名の夢ある学生たちに奨学金を給付しました。「ゆめ基金」にご賛同いただいている会員の皆さまに、奨学生からの声を一部お届けいたします。これまでの奨学生の声は、駒澤会ホームページでもご確認いただけます。是非ご覧ください。

※学年は当時

私は決断することを苦手としています。高校3年の進路選択時、選択肢が多く迷いがありましたが、自らの「もっと学びたい」という思いに気づき、大学進学を決意しました。好きで取り組んできた勉学を、駒澤会の奨学生として3年連続採用という形で認めていただいたことで、高校生の時の決断を誇りに思うことができます。大学4年間で学んだ、決断後の行動が重要であるということ、奨学生としての自覚と周りへの感謝の気持ちを忘れずに、これからも精進して参ります。(経済4年)

昨年私は大学を通じた上海インターンシップに1週間参加し、仕事と人生の関わりを深く考える機会をいただきました。インターネットから分かる情報ではなく、外の土地で生きることの難しさや面白さ、そこから生まれる発見や出会い、価値観と経験は私にとって大きな経験でした。大きな経験と金銭問題は切り離せないものです。奨学金をいただけたことは、私を成長させる新たなチャンスであり大変喜ばしいことです。たくさんの方々に支えられ勉学に励むことができる感謝の気持ちを胸に、残りの大学生活も精進して参ります。(英米文3年)

駒澤会ホームページ
「奨学金受給生の声」
はコチラ！



駒澤大学×駒澤会 「学生支援プロジェクト」を受けた学生の声

学生支援プロジェクトに学生アルバイトとして参加した市川結菜^{いちかわゆいな}さんにインタビューしました。



市川結菜さん (法律学科3年)



支援を喜ぶ学生アルバイトの皆さん

- Q. 学生支援プロジェクトの感想を教えてください。
- A. 想像以上の反響でした。活動をとおして、自分だけでなく、多くの学生が自分と同じように困っていると実感し「辛いのは自分だけではない、頑張ろう!」とすることができました。プロジェクトに足を運んでくださった学生たちのありがとうの声や、笑顔を見て、とても嬉しく思いました。とても良い経験をさせてもらったと思います。共に運営した仲間たち、企画してくださった方々に感謝しています。

- Q. 「駒澤会」に一言お願いします。
- A. この度は、学生支援の一環として、学生支援プロジェクトにご支援いただき駒澤会の皆さまには心から感謝を申し上げます。私をはじめとして、多くの学生は新型コロナウイルスの影響で、普通の生活を送ることが難しくなりました。そんな中で、このような支援をしていただけたことは本当に支えとなりました。沢山の皆さまに支えられ、大学生活を送ることができています。感謝の気持ちを忘れずに、日々しっかりと過ごしていきたいと思っております。この度は本当にありがとうございました。

駒澤会のあゆみ

平成24年度(2012)

- 4月 一戸隆男氏の藍綬褒章を祝う会
- 5月 委員総会・懇親会
- 7月 井上顧問慰労会
駒澤会だより 17号発行
役員会・各部会
- 8月 駒澤会と教育後援会の懇親会
- 9月 秋の研修会（熱海）
- 10月 役員会・各部会
- 12月 駒澤会だより 18号発行
忘年会
- 1月 役員会・各部会
- 2月 新年賀詞交歓会
- 3月 役員会・各部会



一戸隆男氏の藍綬褒章を祝う会にて



駒澤会と教育後援会の懇親会

平成25年度(2013)

- 4月 会計監査、役員会・各部会
- 5月 委員総会・懇親会
- 6月 初夏の親睦会
（浄土宗大本山増上寺）
- 7月 駒澤会だより 19号発行
役員会・各部会
奨学金授与式
- 8月 駒澤会と教育後援会の懇親会
- 9月 秋の研修会（箱根）
- 10月 役員会・各部会
- 12月 駒澤会だより 20号発行
忘年会
- 1月 役員会・各部会
- 2月 新年賀詞交歓会
- 3月 役員会・各部会



駒澤会と教育後援会の懇親会



駒澤会だより 19号企画にて松鳳山閣を取材

平成26年度(2014)

- 4月 会計監査、役員会・各部会
- 5月 委員総会
- 6月 初夏の親睦会（青梅市「井中居」）
- 7月 駒澤会だより 21号発行
役員会・各部会
奨学金授与式
- 8月 駒澤会と教育後援会の懇親会
- 10月 秋の研修会（箱根強羅）
役員会・各部会



委員総会懇談会

- 11月 全日本ボクシング選手権大会応援
- 12月 駒澤会だより 22号発行
ボクシング部祝賀会
忘年会
- 1月 箱根駅伝応援
役員会・各部会
- 2月 新年賀詞交歓会
- 3月 役員会・各部会



卒業式にて入会案内を実施（旧体育館）

平成27年度(2015)

- 4月 会計監査、役員会・各部会
- 5月 役員会（臨時）
委員総会・懇親会
- 6月 初夏の親睦会
- 7月 駒澤会だより 23号発行
役員会・各部会
奨学金授与式
- 8月 駒澤会と教育後援会の懇親会



秋の研修会

- 10月 秋の研修会（奥多摩 松乃温泉）
役員会・各部会
- 12月 駒澤会だより 24号発行
忘年会
- 1月 箱根駅伝応援
役員会・各部会
- 2月 新年賀詞交歓会
- 3月 役員会・各部会



新年賀詞交歓会

平成28年度(2016)

- 4月 会計監査、役員会・各部会
- 5月 委員総会・懇親会
- 6月 初夏の親睦会（高尾山）
- 7月 駒澤会だより 25号発行
役員会・各部会
奨学金授与式
- 8月 駒澤会と教育後援会の懇親会



駒澤会と教育後援会の懇親会

- 10月 秋の研修会（秩父）
役員会・各部会
- 12月 駒澤会だより 26号発行
忘年会
- 1月 箱根駅伝応援
役員会・各部会
- 2月 新年賀詞交歓会
- 3月 役員会・各部会



初夏の親睦会

平成29年度(2017)

- 4月 会計監査、役員会・各部会
- 5月 委員総会・懇親会
- 6月 初夏の親睦会（御岳山展望台）
- 7月 駒澤会だより 27号発行
役員会・各部会
奨学金授与式
- 8月 駒澤会と教育後援会の懇親会



秋の研修会

- 10月 秋の研修会（大雄山最乗寺）
役員会・各部会
- 12月 駒澤会だより 28号発行
忘年会
- 1月 箱根駅伝応援
役員会・各部会
- 2月 新年賀詞交歓会
- 3月 役員会・各部会



卒業式にて入会案内を実施（種月館）

平成30年度(2018)

- 4月 会計監査、役員会・各部会
- 5月 委員総会・懇親会
- 6月 初夏の親睦会
(130周年記念棟「種月館」ツアー)
- 7月 駒澤会だより 29号発行
役員会・各部会
奨学金授与式
- 8月 駒澤会と教育後援会の懇親会



委員総会集合写真

- 10月 秋の研修会(高尾山)
箱根駅伝予選会応援
役員会・各部会
- 12月 駒澤会だより 30号発行
忘年会
- 1月 箱根駅伝応援
役員会・各部会
- 2月 新年賀詞交歓会
- 3月 役員会・各部会



教育後援会と箱根駅伝予選会応援

平成31年/令和元年度(2019)

- 4月 会計監査、役員会・各部会
- 5月 委員総会・懇親会
奨学金授与式
- 6月 初夏の親睦会(椿山荘)
- 7月 駒澤会だより 31号発行
役員会・各部会
- 8月 駒澤会と教育後援会の懇親会



奨学金授与式

- 10月 秋の研修会(奈良・橿原神宮)
役員会
- 12月 駒澤会だより 32号発行
忘年会
- 1月 箱根駅伝応援
役員会・各部会
- 2月 新年賀詞交歓会
- 3月 役員会・各部会



秋の研修会(橿原神宮にて)

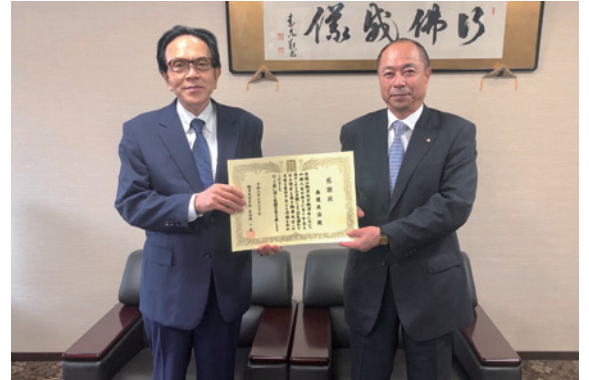
令和2年度(2020)

- 4月 会計監査・役員会・各分会
[書面開催]
- 5月 委員総会 [書面開催]
- 7月 駒澤会だより 33号発行
役員会・各分会
新旧会長交代のご挨拶



新旧会長交代について
永井総長と長谷部学長（当時）へご挨拶

- 10月 役員会・各分会 [書面開催]
- 12月 駒澤会だより 34号発行
- 1月 役員会・各分会 [書面開催]
- 3月 役員会・各分会 [書面開催]



駒澤会会長を8年務められた森屋氏には
感謝状が謹呈されました

令和3年度(2021)

- 4月 会計監査・役員会・各分会
- 5月 委員総会 [書面開催]
- 7月 駒澤会だより 35号発行
役員会・各分会



箱根駅伝優勝を祝して駒澤会だより 35号
特別企画にて大八木監督と奥様に取材

- 10月 駒澤会創立 50周年
役員会・各分会
- 11月 学生支援プロジェクトに参加
- 12月 駒澤会創立 50周年記念誌発行



学生支援プロジェクト当日の様子

10年間の駒澤会役員および 大学当局・事務局一覧

年度	会長	副会長			監査		
平成24年度	森屋正治	一戸隆男	田中隆一	三崎章子	赤堀菊絵	鈴木康元	吉田洋一
平成25年度	森屋正治	一戸隆男	田中隆一	三崎章子	赤堀菊絵	鈴木康元	吉田洋一
平成26年度	森屋正治	一戸隆男	田中隆一	三崎章子	赤堀菊絵	鈴木康元	吉田洋一
平成27年度	森屋正治	一戸隆男	田中隆一	三崎章子	赤堀菊絵	市川よし子	鈴木康元
平成28年度	森屋正治	一戸隆男	田中隆一	三崎章子	赤堀菊絵	市川よし子	鈴木康元
平成29年度	森屋正治	一戸隆男	田中隆一	三崎章子	赤堀菊絵	市川よし子	久野文代
平成30年度	森屋正治	一戸隆男	赤堀菊絵	三崎章子	市川よし子	木村朋子	久野文代
平成31年度 令和元年度	森屋正治	一戸隆男	赤堀菊絵	三崎章子	市川よし子	木村朋子	久野文代
令和2年度	一戸隆男	赤堀菊絵	木村朋子	山田直重	荒井喜久子	市川よし子	三浦ひろ子
令和3年度	一戸隆男	赤堀菊絵	木村朋子	山田直重	荒井喜久子	市川よし子	三浦ひろ子

(敬称略)

年度	総長 (名誉会長)	学長 (名誉副会長)	副学長 (教育研究担当)	副学長 (学生支援担当)	総務局長	財務局長	常勤監事	事務長	担当事務局	
平成24年度	田中良昭	石井清純	齊藤 正(※1)		清水文夫(※1)			岩根嶺雄	唐澤晶子	田村元樹
平成25年度	池田魯參	廣瀬良弘	桑田禮彰	久保田昌希	清水文夫	塚田茂		鈴木廣	唐澤晶子	田村元樹
平成26年度	池田魯參	廣瀬良弘	桑田禮彰	久保田昌希	川波和章	澤口洋一		鈴木廣	唐澤晶子	岡田元晃
平成27年度	池田魯參	廣瀬良弘	桑田禮彰	久保田昌希	川波和章	澤口洋一		和田月史	唐澤晶子	岡田元晃
平成28年度	池田魯參	廣瀬良弘	桑田禮彰	久保田昌希	川波和章	澤口洋一		和田月史	唐澤晶子	岡田元晃
平成29年度	池田魯參	長谷部八朗	日笠完治	猿山義広	川波和章	澤口洋一	青山伸一	和田月史	唐澤晶子	岡田元晃
平成30年度	池田魯參	長谷部八朗	日笠完治	猿山義広	土合一夫	徳本克彦	青山伸一	和田月史	唐澤晶子	日幡亮二
平成31年度 令和元年度	池田魯參(※2) 永井政之(※3)	長谷部八朗	日笠完治	猿山義広	土合一夫	多良和己	青山伸一	和田月史	日幡亮二	貫井和子
令和2年度	永井政之	長谷部八朗	日笠完治	猿山義広(※4) 代田純(※5)	土合一夫	多良和己	青山伸一	和田月史	日幡亮二	谷国遥
令和3年度	永井政之	各務洋子	日笠完治(※6) 吉田尚史(※7)	竹田幸夫	土合一夫	多良和己	青山伸一	松村明(※8) 辻川智子(※9)	日幡亮二	谷国遥

(敬称略)

※1 平成24年度までは副学長1名、事務局長1名
 ※2 池田魯參総長は9/30まで
 ※3 永井政之総長は10/1から
 ※4 猿山義広副学長は7/6まで
 ※5 代田純副学長は7/7から

※6 日笠完治副学長は9/14まで
 ※7 吉田尚史副学長は9/15から
 ※8 松村明事務局長は9/14まで
 ※9 辻川智子事務局長は9/15から



駒澤会の思い出 相談役 高見 静子

「駒澤大学駒澤会」は1971年10月、同窓会、父兄会とともに学生を外護し、教育福利を増強する機関として発足いたしました。

その頃、人格も学業の成績も立派な学生が経済的理由で退学せざるを得なくなり、其の事を当時の副学長の藤田俊訓先生はご自分もたいへん苦勞されて大学を卒業されていたのでその苦しみを思い、学生が学生生活を全うできるべく、駒澤大学建学の理念に基づき「知恵」と「慈悲」により「心身学道」を实践する大学の一環として、当時仏教界でご活躍なさり、ご自分も苦勞され大学生生活をなされた黒田白純氏を初代会長として駒澤会を発足いたしました。

初期の課題としては在學生への奨学金制度、内外の留學生制度の確立を目的とし、次に父兄OB相互の親睦、講演会、研修会などを行う会としての基金づくりが最大の目的でありました。

基金は曹洞宗本山永平寺、大本山總持寺、曹洞宗有力寺院や同窓生、父兄会OBの方々から拠出をお願いいたしました。

禅語に「相續や大難」という言葉があるそうですが、それから50年、脈々として學生への奨学金制度は受け継がれ、今日があります。

のちに父兄会は教育後援会という名に変更いたしました。駒澤会会長、各部の役員は大学事務局にお世話になりながら大学に寄り添った活動をさせていただいております。

開校130年を記念してホール・大小の教室・テラス・食堂等を兼ね備えた「種月館」が建設されました。

また2022年には開校140年を迎えるにあたり新図書館の竣工が予定され、時代とともに変化していく現実社会で活躍できる學生が生み出されています。

駒澤大学の発展を楽しみながら応援していきたいと思っております。



駒澤会思い出の記

相談役 村田 保廣

1994年に教育後援会（当時は父兄会）を終えて駒澤会に入会してからアツという間に27年が経ちました。先輩や同期の仲間で駒澤会に残っている者は寂しいことに皆無となっています。

当時は教育後援会を終えると全員が駒澤会会員になり、会長だった者は自動的に駒澤会副会長に就任、6年の任期が終わると相談役に移行するというシステムでした。そして副会長が総務・厚生・広報部の部長・副部長を兼務することにもなっていました。私は最後の父兄会長を務めて駒澤会に入会、配属されたのは厚生部で副部長に就任しました。

翌年に入会してきた面々は企画力・行動力抜群の人達が多く、秋の慰安会を箱根で開催するにあたり初の観光バス旅行を企画したのです。参加者が50名を超える盛大な催しとなり、それ以降数年にわたりバス旅行が続く発端となりました。それ以前の一泊旅行は近郊の温泉地に三々五々集合して夜の宴会を楽しみ、翌朝解散というものでした。

思い出深いのは長野の善光寺から上田方面にバス旅行した時のことです。一泊した翌日に元野球部員だった方の経営する味噌製造所を見学し、上田周辺にある観光客で大賑わいの寺（名前は失念）に寄った際、たまたま玄関に出てきていた住職に「私達は駒澤大学の関係者で、大学副学長と一緒にバス旅行で来た」と話したところ、やにわに住職は奥に姿を隠し、装束を正式なものに改めて副学長に挨拶に出でこられたのです。一緒に記念写真に加わってもらいましたが、駒大副学長は仏教界では大層偉いのだと実感させられ誇らしい思いに満たされたことを鮮明に覚えております。

各部の活動が活発になるにつれ、中心となって活動している部員に部長や副会長への道が閉ざされていることは不合理という意見が出始め、組織の在り方に抜本的な見直しが行われました。実際に活動している人の中から部長・副部長を選び、数年の実績から役員会で副会長に選ぶ現在のシステムが確立したのです。

駒澤会在籍の27年、思い出深いものが山ほどあります。



駒澤会の思い出 副会長 木村 朋子

私が駒澤会に入会させていただいたのは、娘が駒澤大学を卒業してから2年程経った2008年5月です。

初めて総会に出席した時に、会員の皆さまの真摯なご意見と公明正大な会の運営に、身が引き締まる思いがいたしました。

会員の皆さまの一人ひとりの得意分野が活かされていて、上手に、会の運営がなされているのを感じることができました。

私は厚生部に入部し、「初夏親睦会」「秋の研修会」「駒澤会忘年会」の企画立案・実施にかかわらせていただき、現在に至りました。

秋の研修会の場所選びについては、いつもよく悩み考えさせられました。
(研修会ができる会議室が有り、美味しい料理も提供され、また新たな感動が生まれる場所。)

その折々、駒澤会会長・学長・総長の皆さまにもご相談させていただき、またお力をお借りして、「鶴見の総持寺」、「永平寺」、「大雄山寺」、「檀原神宮」など数々の神社仏閣にも宿泊・参拝させていただきました。

参拝においては、心身改まる思いを何度も経験させていただきました。

私は駒澤会の活動を行いながら、自分自身も楽しみを得ることができ、そして楽しい友人ができたこと、そして駒澤会より毎年奨学金を学生に授与することができることをうれしく思います。

今は世界中がこのコロナ禍でいろいろ制約がありますが、また早く会員の皆さまと親睦会・研修会・研修旅行等楽しい思い出を作っていきたいと思います。

駒澤会50周年を迎えるにあたり、駒澤会の発展と、会員皆さま方のご健勝をお祈りいたします。



駒澤会の思い出

監査 荒井 喜久子

娘が駒澤大学高等学校を受験したのは、男女共学になった2年目でした。私も、娘が高校の時に父兄会にて文化部長を引き受け、大学に進学した後も教育後援会に所属し広報部長を任命されました。娘が大学を卒業した後は駒澤会に入会し広報部の一員になりました。駒澤会だより第21号の取材では大相撲の松鳳山関にインタビューすることとなり、森屋会長と鈴木部長と一緒に相撲部屋を訪ねました。そのご縁から、松鳳山関のお母様が駒澤会会員になってくださり、赤堀副会長と一緒に松鳳山関の実家福岡にまでインタビューに出かけたこともありました。

また、プロ野球阪神タイガース・江越大賀選手のご家族を取材するため、松浦会長とそのファミリーも一緒に、彼の実家である長崎までインタビューしに伺いました。松浦さんはその後病気でご逝去されたのですが、ご家族から「あの長崎が最後の家族旅行になりました。楽しかったです。ありがとうございました」とお礼を言っていただき、感謝しています。

毎年1月3日は、箱根駅伝のゴールを迎えるため、6年間読売新聞社前に通いました。家族は旅行に出かけましたが、私は東京に残り駅伝デーでした。通った6年間のうち駒大は4年連続優勝を果たしまさに黄金時代でした。読売新聞社前の各大学ブラスバンド部の演奏には元気をもらいました。選手たちのゴールを見届けたあと、家族のところへ駆けつけたことも思い出深い一コマです。

駒澤会での思い出は語るに尽きませんが、駒澤とのきっかけである娘も2人の子供を産み、父兄である私の方が長い時間、駒澤大学と繋がっています。

私の人生において学生時代の友人やご近所の友人、さらに駒澤会の友人ができたこと、とてもうれしく思います。今後ともその友人たちを大事にしていきたいです。

駒澤大学が掲げる「世界中で活躍する人材づくり」の実現をサポートできるように、駒澤会は学生支援によって貢献し、学生たちを応援しながら、50年にわたる駒澤会の伝統をこれからも守り続けて参ります。



駒澤会の思い出 教育後援会と合同で箱根駅伝を応援！ 総務部長 堀 純一郎

駒澤会として毎年応援してきた恒例の箱根駅伝。2017年からは教育後援会との合同応援に切り換えました。それまでは、同じ大手町でも別々の場所で応援していましたが、両会がさらに結束を強めるために結集。まさに大応援団としてパワーを送り続けています。2021年はコロナ禍のため沿道での応援は中止となりましたが、合同で応援してきた積み重ねが実を結んだのでしょうか。13年ぶりに7回目の総合優勝を果たすことができたというわけです。以下、2019年の駒澤会だより第31号に投稿した記事から、応援の様子を再現します。

2019年1月3日、復路にて応援。場所は、大手町のゴールから数百メートル手前にある常磐橋あたり。駒澤会からは森屋会長はじめ山田総務部長、滝沢厚生部長、吉備総務部委員、松田素子さんほか有志数名が駆けつけました。

教育後援会との合同での応援となってから2019年が3回目。総勢100人以上の大集団での応援となりました。大人数だと盛り上がります。早い方は場所取りや幟の準備もあり、13時半ごろのゴールよりも数時間前に集合。インターネットやワンセグでの実況中継を見聞きしながら、駒大の順位や動向はもちろん世間話にも花が咲きました。最近の大学のこと、予選会でも一緒に応援したこと、各自の子供の様子、自分の健康のことなど、教育後援会の皆さんとも会話が弾む中で、駒大もゴールを迎えました。

箱根駅伝は2019年が第95回。思い返せば、2018年、駒大は総合12位でシード権を失い、2019年は我々も応援に出向いた予選会をトップで通過し本戦に臨みました。結果は総合4位で、10位以内に与えられるシード権を見事獲得しました。沿道の声援が選手にも届いたことと思います。復活！駒大です。

俄然、応援後の慰労会も盛り上がりました。教育後援会との合同で、和気あいあい。2013年の復路優勝以来、遠ざかっている優勝を祈念するとともに、駒澤会に入会してくれる人が増えることを願いつつ、教育後援会の皆さんとも親睦を深めることができました。

そして・・・2021年。見事、総合優勝！駒大、完全復活です(*^^*)。教育後援会のOB/OG会である駒澤会。教育後援会との絆をますます強くしていきましょう！





私が駒澤会を大切に思う理由

広報部長 齋藤 和子

それは10年程前になると思います。教育後援会卒業後、駒澤会に入会するも、部には所属せず、私はただ在籍しているだけでした。そんな時、同期で教育後援会会長を務め駒澤会にも深く関わっていた松浦さん（今は故人となられています）に誘われ、秋の研修会に参加いたしました。

研修会は熱海の老舗旅館で当時総長を務められていた田中良昭先生のお話を拝聴するというものでした。

良昭先生は毎年、戦時中の疎開先であった静岡県の小学校に招かれ、「禅語に学ぶ」というお話を卒業生に向けてされていて、その中から選ばれた幾つかの禅語についてのお話でした。禅語について全く知識の無い私でも興味深く、大変分かりやすく学ぶ事が出来たと記憶しています。

そして、その後催された親睦会で、私は運良く良昭先生と席が近くお話しする機会に恵まれました。私の母が静岡県磐田市の小さなお寺の娘であり、横浜の父のところに嫁いで来たとお話すると良昭先生が、「何というお寺？」と聞かれて、「磐田の松向寺です」と告げると「小川さん？」と仰られ、「よく知っている」と言われました。私は、こんなことがあるのかと驚きで居ても立っても居られない気持ちでした。聞けば母の兄でお寺の住職の伯父とは幼い頃から友人であったとのこと。まさか娘の卒業した大学の総長先生と伯父が知り合いとは思ってもみませんでした。ご縁がこんなところで繋がっていたのは本当に驚きでした。

今は二人とも空に帰している良昭先生と伯父ですが、そのご縁を私まで引き継がせて貰えたのは駒澤会のお陰です。私もまた、色々なご縁を繋ぐ一助となればとの思いで、駒澤会のお手伝いをさせていただきます。



駒澤会「秋の研修会」 厚生部長 滝沢 憲示

駒澤会「秋の研修会」は、「初夏の親睦会」「忘年会」と同様に駒澤会会員は誰でも参加することができます。

令和2年度と令和3年度の駒澤会「秋の研修会」は新型コロナウイルスによって中止になりました。若年層にもワクチン接種が進み、飲み薬が使えるようになることを期待しているこの頃です。

ここでは、平成29年度と令和元年度に実施した駒澤会「秋の研修会」の概要を記します。

平成29年度【大雄山最乗寺】平成29年9月30日（土）～10月1日（日）

JR小田原駅改札前に集合して、小田原駅から伊豆箱根鉄道大雄山線に乗って終点の大雄山駅に行き、大雄山駅前からバスに乗って終点の道了尊で降りました。辺りは杉の大木が立並び、バス停の近くには土産物店が何軒もありました。道了尊バス停のすぐ前が曹洞宗の名刹大雄山最乗寺でした。受付をして部屋に荷物を置いてみんなで境内を散歩しました。大雄山最乗寺は天狗伝説でも知られており、庭には鉄製の大きな赤下駄が何足も奉納されていました。広い境内を巡り、石段を何段も登って奥の院まで行きました。奥の院の御堂の近くにも御守等の売店がありました。夕食時に池田魯参名誉会長の講話を聴かせていただきました。池田魯参名誉会長は、今日最乗寺に来る前に二宮尊徳の生家に行ってこられたとのことでした。食事作法等について話をさせていただきました。池田魯参名誉会長は夕食後帰宅され、私たちは最乗寺に宿泊しました。翌朝、みんなで本堂や廊下等の掃除をしたことも良い体験になりました。

帰路、小田原城を見学しました。天守閣に登って相模湾等の景色を見たり、展示品を見たりしました。小田原城見学後解散し、希望者は横浜中華街に行って食事をして帰宅しました。

令和元年度【檀原神宮】令和元年10月5日（土）～6日（日）

今回は貸切バスで東京から奈良県の檀原神宮に行きました。

檀原神宮に直接行く人には、檀原神宮の休憩場所で待ってもらって、合流しました。バスは東名高速道路・名阪自動車道を通って檀原神宮に行きました。檀原神宮は初代天皇の神武天皇をお祀りしている神社です。久保田前副学長の弟さんが宮司を務められていて、正式参拝をさせていただきました。研修会では長谷部八朗名誉副会長の講話を聴かせていただき、檀原市内のホテルに宿泊しました。

翌日、朝の檀原神宮に参拝し、境内の池の周辺を散歩してから、大神神社、明日村、飛鳥寺等を観光しました。帰路のバスも名阪自動車道・東名高速道路を通って新宿駅西口まで帰りました。



ゴルフでつなぐ駒澤愛 厚生部副部長 吉田 稔

駒澤会設立 50 周年おめでとうございます。

伝統ある駒澤大学らしく、古くから同窓会、教育後援会、駒澤会という各代表機関をとおして様々な連携が継続され 50 周年につながったことと思います。

あらためて、駒澤会の継続力を実感し諸先輩方の取り組みに感謝いたします。

私は、子供の入学を縁に、教育後援会活動を経て駒澤会への入会にも繋がりました。このように駒澤の応援団が増えていくことはとてもいい相乗効果だと思います。

駒澤大学が 130 年以上の歴史を有する年月に比べれば、50 年は浅いかもかもしれませんが、現役学生の保護者組織である教育後援会活動において学生たちを見守るだけでなく、ともに参加する機会としてゴルフ部との交流が定着しました。

当時のゴルフ部員のお父様の発案によりスタートした混合コンペ（廣長杯）や 4 年生の追い出しコンペ（旃檀林杯）は現在も受け継がれています。

そして、教育後援会現役メンバーおよび OB、OG による「駒澤大学オールスターゴルフコンペ」も今秋で 15 回を迎えます。

ゴルフをともに楽しむ親睦は、駒澤会の活動には直接関係ありませんが、駒澤大学にご縁をいただいた様々なメンバーが過去、現在、未来にわたり触れ合いながら多様な駒澤愛を育むことが次の 60 周年につながるのだと思います。

駒澤会と大学は、緊密な連携が確立されており、併せて教育後援会、同窓会とも連携を深めていますので、今後の更なる活発な活動が期待できます。

駒澤愛の多様化によるサポートには、会員相互の親睦や研修等、様々な形がありますが、原点である給付型奨学金制度の発足および継続に係わる諸先輩方のご尽力を忘れてはいけなと改めて思う次第です。

今後も、子供たちとともに、私たち保護者も様々な場面をとおして、駒澤大学共々、活躍できることを祈念しております。

駒澤関係者のすべてが、駒澤オールスターズでありますように。





「駒澤会奨学金基金」へのご寄付のお願い

駒澤大学を支援する団体として、有志の方々が駒澤会を創設してから今年で50年となりました。設立当初、できるだけ多くの駒澤大学生に奨学金を支給するため、会員が手分けをして宗門はじめ全国各地で寄付をお願いして回り、10年余の年月をかけて極めて高額な3億円の基金を集められたと聞いています。ご寄付いただいた方の中には、永年駒澤大学に奉職された先生方から、退職金の全額を寄付していただいたという逸話も聞いております。

駒澤会では多数の方々の深い思いのこもった基金によって、毎年20名の在校生に総額400万円の奨学金の支給を継続して行っています。駒澤会奨学金が学生やご父母を少しでも支え、勉学に適した環境を作る上にお役に立つことを念じながら活動しております。

支給する奨学金は、原則として毎年新規入会される会員から入会金収入と基金の運用利益から支出したいと努力しておりますが、ここ暫くは赤字決算が続き、基金総額がしだいに減少しつつあるのが現状です。

今年創立50周年を迎えるにあたって、駒澤会会員や駒澤大学関係者の方々に駒澤会奨学金の意義をご理解いただき奨学金基金の積み増しのために、ご寄付をお願いしたいと思います。これまで駒澤大学が、日本の将来を支える若者の教育に大きな力を注いできたことをご理解いただき、苦しい経済状況の中で子弟のために奮闘しておられる現役学生の父母のためにも、是非皆さまのお力添えを切にお願い申し上げます。

令和3年12月

駒澤会会長 一戸 隆男

駒澤会奨学基金への寄付手続き

同封の郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、お振り込みください。

1口＝5,000円

(小額での御寄付も有難くお受けいたします)

- ※ ネットバンキングでのお振り込みも受け付けております。
振込名義は「ショウガクキン（スペース）ミョウジ（スペース）ナマエ」としてください。
金融機関名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）
店名（店番）：〇一九店（ゼロイチキュウ店）
預金種目：当座
口座番号：0030739



駒澤会に思う

副会長

駒澤会創立50周年記念事業実行委員会
委員長 山田 直重

1971年の10月に駒澤会は発足しました。今年度そこから50年の節目を迎えました。駒澤会は父兄会OB有志の集まりで学生支援として奨学金給付を行う事と会員相互の親睦をはかる事を目的とする会として発足しました。1982年（昭和57年）に学生への奨学金給付が始まりました。学生への奨学金給付実現にあたっては偏に初代駒澤会黒田白純会長をはじめ会員各位、大学関係各位及び宗門各位の多大なご協力ご支援あつてのことと深く感謝申し上げる次第です。

現在、昨年からの新型コロナウイルスの流行が中々収束せず、駒澤大学では学生および教職員ともに多人数での会食が禁止されております。今年も駒澤会の活動は大きく制限されました。総会は書面による会議となり初夏の親睦会や秋の研修会は2年続けて中止となりました。私は本年4月に50周年記念事業実行委員長を拝命いたしました。この「50周年記念誌」発行を進めることはできましたが暫く祝賀会は開催できそうにありません。しかし駒澤会は今年度に入ってから2度の役員会を開催し今後の活動に備えております。

私は駒澤会に入会後、今年で11年目を迎えました。競争社会、二極化などと表現される厳しい会社人間で人生を過ごした我が身からすると駒澤会の皆さまは自然体の優しさに溢れた方々です。自身、駒澤会に入会してから覚えた道元禅師が詠まれた和歌があります。「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて冷しかりけり」

さらに学びの場にある駒澤会に「あの人がいた夏」の時間を感じるのですがこの言葉って昭和の時代に生まれ育った私たちにしか理解できない言葉でしょうか。「お久しぶりです。お元気そうですね。」などの挨拶から始まって、最後は「次は〇〇ですね。ではお元気で。」と別れる。こんな駒澤会の雰囲気がこの先も変わらないことを願っております。

これから50年先を思うと、社会、文化、経済の変化など時代の変化が出現し、そこまでの間には予期せぬ事件や災害も発生するでしょう。気候変動や大地震の発生など未来予測は簡単ではありませんが未来はより良い選択をし行動した結果です。今後、先輩方が築いてくださった奨学金給付は時代に合わせ資源に合わせて見直しをし、形も変化するかも知れません。しかし駒澤会の理念は先輩諸氏の意思を受け継ぎ会員の皆さまの思いを合わせて駒澤大学ならびに学生たちを支援する会として活動を続ける会であることは変わらないでしょう。

結びにこれからも駒澤大学関係者の皆さまおよび会員皆さまの末長きご協力ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。さらに駒澤大学ならびに駒澤会の益々の発展を祈念いたします。

駒澤大学 駒澤会



『駒澤会シンボルマーク』は、駒澤会の活動を学内外の皆様を紹介するため、また、いろいろな所にこのマークを使用することで、駒澤会を身近なところで知っていただきたく、平成21年に誕生しました。

駒澤大学の発展、在校生への支援を目的とし、前進を続ける「駒澤会」ご父母の意志をイメージしてデザインされました。

同じ方向を見つめる横顔は大学支援と駒澤会の設立主旨を後世に伝える為の気持ちの結束を表しております。

また色使いでは、駒澤大学カラーの紫を基調色とし、4つの横顔それぞれに、最も色の濃い右端から順に、

1. 駒澤会がこれまでに培ってきた伝統と、携わってきた方々の重み
2. 現在の活動と成果
3. 近い将来に向けてのビジョン
4. まだ見ぬ先の真っ白なパレット

このように、過去から未来に向けての襻リレーの意味を表しております。

《駒澤大学駒澤会 50周年記念事業実行委員会》

委員長	山田直重			
委員	一戸隆男	赤堀菊絵	木村朋子	森屋正治
	荒井喜久子	堀純一郎	軽部雅美	堀内和代
	齋藤和子	桐畑秀司	滝沢憲示	吉田稔
事務局	辻川智子	日幡亮二	谷国遥	

駒澤大学駒澤会創立 50周年記念誌

令和3年12月 発行
編集・発行 駒澤大学駒澤会 50周年記念事業実行委員会
〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1
お問い合わせ 駒澤大学駒澤会事務局（駒澤大学教育振興部内）
03-3418-9189



しなやかな、意思。

駿澤大學